会報 文化財保存新潟県協議会
第７０号
2022年10月15日発行

文化財保存新潟県協議会・第２２回大会

『甘粕 健 先生逝去から10年 今、古墳研究と文化財保存を考える！』

今年度の文化財保存新潟県協議会総・大会を以下のように開催いたします。総会は文化財保存新潟県協議会会員（新潟県内在住の文化財保存全国協議会会員）が年に一度集まり、本会の活動を振り返り、今後の指針を協議する重要な会です。また、大会は広く市民に参加を呼びかけ、遺跡と歴史を一緒に学ぼうという機会です。

本会初代会長で新潟大学名誉教授の甘粕健先生が逝去されてから早くも10年が経過しました。先生は、若い時から古墳研究と文化財保存運動に精力的に取り組み、1970年に本会の母体である文化財保存全国協議会（文全協）が結成された時には事務局長に就任。以来、代表委員をつとめるなど、日本の文化財保存運動の最前線でリーダーシップをとってこられました。1977年に新潟大学に着任すると、それまで古墳文化の空白地帯だった越後平野の古墳探査と調査・研究を進め、多くの成果をあげます。同時に、1984年の中郷村（現、上越市）籠峰遺跡の保存運動を皮切りに、見附市耳取山遺跡群、新津市（現、新潟市）八幡山遺跡、和島村（現、長岡市）八幡林遺跡、上越市裏山遺跡など、多くの遺跡の保存運動に取り組みました。

1996年、先生の呼びかけで新潟県内に住む文全協会員で組織されたのが、文化財保存新潟県協議会（文新協）です。以来、先生は、本会会長として陣頭指揮を執り、遺跡の保存運動だけでなく、広く市民を対象とした学習会を企画し続け、新潟の考古学ファンの裾野を広げることに尽力されました。こうした活動に加え、日本考古学協会の会長として旧石器遺跡ねつ造問題の調査・解明の陣頭指揮にあたられたこと、新潟市歴史博物館（みなとぴあ）初代館長として、市民に開かれた博物館を県都新潟市に根付かせたことなど、先生の功績は数知れません。

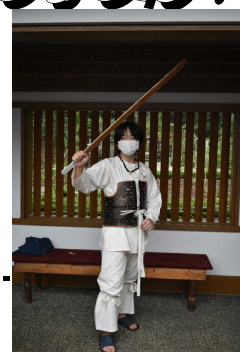
先生のご逝去後、わたしたち文新協は柏崎市西岩野遺跡の保存運動に取り組み、大きな成果をあげました。また、近年では各地で新たな古墳が確認されるなど、古墳研究も日進月歩の勢いです。今こそ、先生が残した古墳研究と文化財保存運動の成果を振り返り、その現状と課題を考えます。ふるってご参加ください。

と　き：２０２２年１１月２７日（日）
ところ：新潟市万代市民会館・６階多目的ホール（新潟市中央区東万代町９番１号）
日　程：総会　１２：３０～１３：００
大会　１３：００　一般受付開始
１３：３０開会～１６：００（終了予定）
講演「文化財保存のこれまでとこれから－成果と課題－」
坂井秀弥さん（新潟市歴史博物館館長・奈良大学名誉教授）
「甘粕健先生没後10年の古墳（時代）研究－その過去･未来－」
橋本博文さん（本会会長・新潟大学名誉教授）
※事前申し込み不要。どなたでも参加できます。資料代５００円をいただきます。詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

感染状況により中止や予定変更の場合があります。本会ホームページにてご案内します。感染対策のため、マスク着用や手洗い、手指消毒にご協力ください。発熱や風邪症状など体調不良の方は、入場をお断りいたします。

初秋の一日、角田浜妙光寺山古墳に学び楽しみました・・・

『角田浜妙光寺山古墳まつり』を開催しました！



2022年9月24日（土）、新潟市西蒲区妙光寺境内において「角田浜妙光寺山古墳まつり」が開催されました。角田地区の人たちを中心に実行委員会が結成され、文新協や新潟大学あさひまち展示館のあさひまち友の会有志も全面サポート。新潟日報「未来のチカラ」プロジェクトの取り組みとして企画を進めてきました。参加者の方の感想を紹介します。

古墳まつりについて

近藤 浩一

2022年9月24日（土）に開催された角田浜妙光寺山古墳まつりに参加しました。様々な催しがある中で私は、2017年に発見され、2019年9月に再発見された前方後円墳を見学しました。標高112mの高い妙光寺の裏山で汗をかきながら、息を切らせ、ようやく登りました。

墓は思ったよりも大きく、海を隔て、佐渡島が眺望できる素晴らしい場所にありました。木立が茂っていた為、北東の麓側の景色は見えませんでしたが、この先には、砂丘と佐潟があります。古墳が築造された当時は、沼沢地や湿地、集落が存在したのではないかと、想像をしました。

祭りのイベントでは、古代衣装を纏った首長や巫女、従者が首長の葬式を行っていました。古代人の生活や、信仰の説明があり古代人への興味が更に湧きました。

日本列島各地に古墳が築かれた４～５世紀頃に日本海沿い北辺の古墳が新潟県蒲原地方で広大な低湿地を見下ろす場所に築造された、と言われています。それが菖蒲塚古墳で、同時代海沿いに築造されたのが妙光寺山古墳ではないかと私は推測しております。私の住む地域の近くでこのような歴史を紐解くものが発見され、これを機に地域を見直すきっかけとなると嬉しいです。

今後の発掘調査で当時の暮らしなど解明されることを楽しみにしております。

上の参加者の感想にもあるように、角田浜妙光寺山古墳は妙光寺境内から100m以上登った丘陵上にあります。そこで今回の古墳まつりは古墳上での開催をあきらめ、妙光寺さんの境内をお借りして行われました。当日は実行委員や地元市民によって運営が行われ、約200名の市民が参加。心配された雨は朝から上がり、初秋のひととき、たくさんの古代体験と葬送儀礼の再現によって古墳時代に思いをはせました。

火起こし体験で火がついた！

妙光寺本堂前の回廊に囲まれた院庭のデッキには、様々な古代体験のコーナーを設置しました。一

番人気は「勾玉づくり」。出張していただいた新潟市文化財センター（まいぶんポート）職員の指導のもと、たくさんの親子が勾玉づくりに挑戦しました。火起こし体験では多くの参加者が火種を作り出すことができ、「火起こし認定証」をもらってさらに大喜びでした。「発掘体験」では自分で掘り出した土器片（実際の土器を模して作ったもの）をお土産に満足そうでした。「鎧の試着体験」では実際に試着する人数は限られましたが、試着した人は刀を片手に撮影し盛り上がっていました。院庭から少し離れた杉林の中で行われた「弓矢体験」は、この日のために特別に製作していただいた弓の威力がすごく、こどもも楽しんでいましたが、大人もはまって先を争ってやっていました。

堂内には「展示コーナー」が設けられ、角田浜妙光寺山古墳はもちろん周辺の古墳の模型が飾られ、人だかりができていました。地元の人たちにとっては身近な古墳たちですが、模型の出来映えがよく、「他の古墳と比較できて良かった」と好評でした。本邦初公開の「越前浜の海揚がりの土器」（個人蔵）のほか、巻郷土資料館から借りた周辺遺跡出土の土器も関心を集めていました。

これら体験が行われたデッキの中央には白線で古墳を再現しました。アンデスの民族楽器であるケーナと太鼓・ギターの演奏が始まると会場は大盛り上がり。ステージ前でこどもたちが踊り出し、いい雰囲気を醸し出しました。そして、雰囲気が盛り上がったところでいよいよ「古墳祭祀」です。実行委員会の呼びかけに集まった約20人の地元市民が衣装を着こなしてムードを盛り上げ、古墳時代にタイムスリップ。橋本博文本会会長の解説を聞きながら古墳への遺体埋葬の祭祀を再現しました。巫女が器に一升瓶で本物のお酒を注ぐ遊び心あふれるシーンや、赤い色紙を切って撒いた朱を散布する演出効果、土器を最後に割る儀礼が印象的でした。実際の古墳の上での祭祀再現はできませんでしたが、実行委員が事前にアイデアを出し合い準備してきた小道具類で、古墳時代の葬送儀礼のイメージを膨らますこと

一番人気の勾玉づくり

発掘体験で土器をゲット！

大人も夢中になった弓矢体験

楽器の演奏に思わず踊り出す･･･

模型や遺物の展示も大好評！

古墳の埋葬祭祀を再現！

埋葬祭祀に参加したみなさん

ができました。最後に出演者全員で記念撮影。良い思い出になったでしょうか？

今回の古墳まつりを機に丘陵上の古墳に登った人も30人以上にのぼり、文新協メンバーが説明にあたりました。４～５組の家族連れなど地元の方が多く、問題意識の高い方々が目立ったようです。古墳を見学しながら親子で古代史談義をする微笑ましい姿も。文新協ではこの日に合わせて「角田浜妙光寺山古墳見学のしおり」を作成し配布しましたが、コンパクトで分かり易いと好評でした。

会場には遠方から訪れた方も多く、「ぜひ地元の古墳でも古墳まつりをやりたい」との声も聞かれていました。今後は各地での開催も含め、活動の継続が課題となります。

なお、文新協が作成した「角田浜妙光寺山古墳見学のしおり」は本会ホームページから見ることができます。両面印刷して三つ折りにするとコンパクトになります。現地見学などに自由にご活用ください。　**（事務局）**

※右の二次元バーコードから文新協ホームページにアクセスできます。
「見学のしおり」をスマートフォンで見ながら見学することも可能です。

編集後記　今号は、先日行われた「角田浜妙光寺山古墳まつり」の模様を中心に紙面を構成しました。古墳が多くの人々に認知されてから３年になりますが、特に今年に入ってから、地元市民を中心に古墳に学び地域の宝物を再確認しようという活動が盛んに行われてきました。今回の古墳まつりはそうした活動の延長上にあるもので、多くの地元の人たちの協力で実現することができました。こうした取り組みが継続されるよう、文新協として全力でサポートしていきます。また、冒頭ご紹介したように２年ぶりに大会を開催いたします。多くの方のご参加をお待ちしております。

この『会報』は文新協会員（新潟県にお住まいの文化財保存全国協議会（文全協）会員）でなくても、最近の文新協行事に参加された方にお送りしていますが、経費節減、発送作業の負担軽減、個人情報保護の観点などから、今後、会員以外への送付を取りやめていきます。確実な郵送をご希望の方は、日本全国の遺跡を守るために活動している文全協にご入会ください。

文化財保存新潟県協議会（文新協）事務局（入会についてのお問い合わせも）
電話：090-2735-5536（木村）
Ｅ－ｍａｉｌ：bun-sin-kyou@js8.so-net.ne.jp
ホームページ：https://bunsinkyou.web.fc2.com/

文化財保存全国協議会（文全協）のホームページもご覧ください。
http://bunzenkyou.jp/